

令和元年度 医学群  
教学 I R 実施報告書

## はじめに

欧米諸国では、医学教育の質の担保を目的として医学教育の分野別評価が以前より行われています。2010年、米国医師国家試験受験資格審査NGO団体(ECFMG)から、「2023年以降は、国際基準で認定を受けた医学校の出身者にしか申請資格を認めない」との通告がありました。この、いわゆる「2023年問題」に対応し、国際的に通用する医師養成制度を確立するため全国医学部長病院長会議(AJMC)、文部科学省などとの協働のもと、我が国において世界医学教育連盟(WFME)の国際基準をふまえて医学教育プログラムを公正かつ適正に評価する日本医学教育評価機構(JACME)が設立されました。

横浜市立大学医学部医学科においては、このJACMEによる審査を2016年5月に受審し、その後内部手続きを経て2018年4月から2024年3月までの認証を受けています。しかしながら、改善のため示唆・助言のひとつとして、教学IR体制のさらなる整備とその体制を利用した継続的な医学教育プログラムの改良の仕組みの構築についての指摘がありました。その後の医学科の改善状況の詳細については、毎年JACMEへの報告と本学ホームページ上での公開を毎年行っている年次報告書に記載されています。今回全学的な取り組みのもと、医学群の各所で徐々に改善が図られ、この報告書を作成する運びとなったことを幸甚に存じます。

なお医学群に所属する学生数は、医学科定員90名/学年、看護学科定員110名/学年と少なく、個人が特定されやすい状況を踏まえて、情報の一部について概要のみの公開となることをご容赦頂ければと考えております。

医学群教学IR検討ワーキング長  
医学教育学 主任教授  
稲森 正彦

## 令和元年度 医学群教学 I R 取組事項

### 1. 医学部生の動向調査について

<取組概要>

- 1 入試情報と各種成績等の相関に関わる調査
- 2 留年に関する調査
- 3 出身地と進路に関する調査

上記の分析結果について、各種会議にて報告を行うとともに、結果を教授会等で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

### 2. 医学科留年問題に対する取組の効果検証について

<取組概要>

医学科における留年問題への対応として、昨年度の教学 IR での分析に基づいて行ってきた授業時間数調整、教室整備、入試解析の3つの対策について、それらの対策の効果を検証し、各種会議にて報告を行うとともに、結果を教授会等で報告・共有し、医学科におけるカリキュラム改善を支援した。

### 3. 教学比較 IR コモンズについて

<取組概要>

国際総合科学群同様、学生データの効率的な収集及び他大学との比較のため、教学比較 IR コモンズに入会し、1年次、3年次の学生に対しアンケート調査を行った。教学比較 IR コモンズ全体の解析結果について、令和2年度に報告される予定である。

## 1. 医学部生の動向調査について

### (1) 実施内容

昨年度に引き続き、医学群 IR にて収集している入試情報、学内成績情報、各種国家試験情報、進路情報等に基づいて、以下の検討を行った。

- 1 入試情報と各種成績等の相関に関わる調査
  - ・入試成績と入学区分（一般枠、地域枠）の関係（医学科）
  - ・入試成績と「CBT・OSCE」や国家試験合否との相関（医学科）
  - ・入試区分別 海外FW参加率（看護学科）
  - ・入試区分別 保健師課程選抜率（看護学科）
- 2 留年に関する調査
  - ・留年を経験した卒業生の推移と分析（医学科・看護学科）
  - ・入試成績と国家試験との相関（医学科）
- 3 出身地と進路に関する調査
  - ・地域医療の維持と進路傾向の調査（医学科、看護学科）
  - ・医局入局者と県内派遣医師の状況（医学科）

### (2) 解析及び検討状況

- 1 入試情報と各種成績等の相関に関わる調査
  - ・入試成績と入学区分（一般枠、地域枠）の関係（医学科）

過去5年間に卒業した学生を対象に、入試成績と入学区分について、解析を行った。入学時においては、一般枠で入学した学生の学力が高い傾向が見られた。
  - ・入試成績と「CBT・OSCE」や国家試験合否との相関（医学科）

過去5年間に卒業した学生を対象に、入試成績と、本学において4年次に行う共用試験（CBT及びOSCE）との関連性を調査した。入試成績上位の学生が共用試験においても成績上位である傾向が見られた。
  - ・入試区分別 海外FW参加率（看護学科）

2年次に実施している希望制の海外派遣プログラムへの参加について、2014-2018年の参加状況をもとに、入試区分別の参加率を調査した。導入初年度(2014年)では明確な差が見受けられたが、全体では入試区分別の差は生じていない。
  - ・入試区分別 保健師課程選抜率（看護学科）

選抜制の保健師課程（定員30名）の選抜と入試区分の関連について2015-2018年の選抜状況をもとに調査した。単年度(2017年)で差が見られるものの、全体では入試区分別の顕著な傾向は見られていない。
- 2 留年に関する調査
  - ・留年を経験した卒業生の推移と分析（医学科・看護学科）

過去5年間に卒業した学生を対象に、6年間で卒業できた割合の推移を検討し、全国的な傾向と同様に低下傾向にあることを確認し、その要因についての分析を行った。

- ・入試成績と国家試験との相関（医学科）

近年の医師国家試験の不合格者を対象に入試成績との関連を個別に検討し、その要因についての解析を行った。

### 3 出身地と進路に関する調査

- ・地域医療の維持と進路傾向の調査（医学科、看護学科）

出身地（出身高校）と卒業生の進路について調査を行い、要因についての解析を行った。

- ・臨床系教室入局者と県内派遣医師の状況（医学科）

出身地と臨床系教室入局者及び県内派遣医師の状況について調査を行い、解析を行った。

### （3）分析結果の報告

上記の分析結果について、以下の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会での報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

- 医学群 IR ワーキング
- 医学教育センター会議
- 医学科教授会・医学部合同運営会議

### （4）添付資料

- ・なし（本概要のみ公開）

## 2. 医学科留年問題における取組の効果検証について

### (1) 実施内容

医学科における留年問題への対応として、以前の教学 IR での分析に基づいて以下の対策を行ってきた。

- (1) 2、3 年生の授業時間数の調整
- (2) 教室の整備 (C4 実習室の改装)
- (3) 入試解析

上記対策とそれに関わる背景因子や学修者の傾向を確認した。

### (2) 解析及び検討状況

調査年度において留年者の数は前年度と比して概ね半減し一定の効果が見られた。さらに留年者を中心とした情報を集積し質的な検討を行った。

### (3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、下記の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会での報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

- 医学群 IR ワーキング
- 医学教育センター会議
- 医学科教授会・医学部合同運営会議

### (4) 添付資料

- ・ なし (本概要のみ公開)

### 3 教学比較 IR コモンズへの入会

#### (1) 教学比較 IR コモンズについて

教学比較 IR コモンズは、入り会いの各大学における学生の学修行動の比較調査とその分析、そして教学関連の情報を比較閲覧するためのデータベース構築とその提供を行っている組織であり、令和元年度は21大学が加盟している。医学群においても医学科・看護学科を有する参加大学があることを踏まえ、国際総合学群同様に効率的なデータ集約と他大学比較を目的に令和元年に入会することとした。

##### <入会大学>

- ・ 大妻女子大学
- ・ 岡山大学
- ・ お茶の水女子大学
- ・ 嘉悦大学
- ・ 川崎医科大学
- ・ 京都女子大学
- ・ 金城学院大学
- ・ 就実大学
- ・ 椙山女学園大学
- ・ 共立女子大学・共立女子短期大学
- ・ 津田塾大学
- ・ 帝京大学
- ・ 田園調布学園大学
- ・ 東京女子大学
- ・ 長崎県立大学
- ・ 日本女子大学
- ・ フェリス女学院大学
- ・ 宮城大学
- ・ 明星大学
- ・ 横浜商科大学

#### (2) ALCS 学修行動比較調査について

教学比較 IR コモンズに加入する各大学の1及び3学年に対し、共通の設問(80問)について実施する。学生はインターネット上から調査期間中いつでも回答することができるため、授業時間に実施する必要がなく、また、教員が関与することなく調査の実施及び集計が可能であり、調査結果についてコモンズに加入する他大学と比較することが可能である。本調査については、令和2年度以降も参加する予定である。

#### (3) 添付資料

- ・ ALCS 学修行動比較調査 2019 結果梗概 (令和元年度 国際総合科学群 教学 I R 実施報告書参照)